

次代を開く



2023年9月期は売上高、営業利益、純利益で過去最高の業績を収められた。重点事業としてインフラ整備や防災、交通などの160件弱のプロジェクトを国内外で推

オリエンタルコンサルタンツ
ホールディングス

野崎 秀則社長

進したことが成果として表れたのだろう。30年9月期には売上高1100億円を掲げている。さらなる成長が必要だ。1100億円の実現に向けて、現在連結させていない海外現地法人を連結させることは重要なポイントだ。ただしこれで実現できるのは会計上の成長であり、さらにDXの活用でどれだけ業務の付加価値を高められるかが課題だ。

付加価値を高めて成長

AIなど高度な技術を持つパートナーと手を組み、新しい価値を作っていきたい。直接的な建設コンサルタン業務以外で自ら投資し、成長する道筋も描いている。国内ではワーケーション施設やキャンプ場などを設計・施工から運営・管理まで行っている。海外ではインドネシアの離島で生鮮食品を新鮮に流通させるコールドチェーン設備

を導入し、離島の電化と水産業の発展促進を後押ししている。海外ではこうした取り組みを他にも予定しており、海外の非政府開発援助（ODA）強化を進める。

今後の街づくりで重要なのは当社の専門的な技術力とDX、そしてマネジメント力だ。インフラの強靱化や保全だけではなく、交通や地方創生、医療といった多様な要素が求められる中、マネジメント力は当社の大切な柱になってくるだろう。